

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	可能な限り、利用者一人ひとりの意見を尊重し、理念に基づいた援助をするよう心がけている。	理念は開設時にスタッフと話し合い作成しました。事業所の玄関に理念を掲示し、実践できるように努めています。	定期的に理念を確認する機会を設け、よりサービスに理念を反映できるように検討を期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流バーベキュー大会や近隣保育園・学童との交流会を通して、施設が孤立しないようにしている。	地域の敬老会から行事の際に声を掛けていただき参加したり、保育園の園児が時々訪問してくれるなど地域との交流を図っています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出の機会を多くすることにより、認知症の人でも見守りがあれば、普通に生活できることを地域住民に向け発信している。また、親戚や近所の方々とも触れ合えるようにしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設してより4回の推進会議を行っており、行政からの指導や委員の方からの意見を日々の援助や行事に活かしていくようにしている。	運営推進会議は市の担当者、包括支援センター職員、民生委員などに出席していただき、活動状況の報告と事業所への意見を頂くなどサービスの向上に繋げるようにしています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護担当課や地域包括支援センターと連絡を取り合い、疑問点について確認したりし、良い関係作りに努めている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております。管理者も以前在宅介護支援センターに勤務していたことのあるので、気軽に相談をできる関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての十分な理解が出来ているかどうかは判らないが、基本的に拘束は行っていません。施錠は夜間のみとし、日中は自由に出入りできるようにしている。	言葉の抑制、金銭の抑制などのグレーゾーンも職員間で共有する機会を設け、身体拘束に対する理解を深めています。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所者に対して、身体的にはもちろんのこと、言葉での虐待が起こらないよう、職員同士でも気をつけて一人ひとりと接している。	虐待に関しては外部研修参加者から職員会議で報告する機会を設け、職員間での共有を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入所されていた方で、後見制度を利用されていた方が居られ、制度の内容について、会議のときに勉強した。その後、後見人制度を利用されている方はいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分な説明を行うようにしている。また、時間が経過してから疑問点などを聞かれたときはその都度返答し、理解・納得していただくようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人やご家族の方よりの意見や要望に出来るだけ早期に対応するようにしている。場合によっては出来ないことは、出来ない旨を十分な説明をし、納得していただいている。	日々のご家族とのやりとりの中で意見や要望については確認をしています。またバーベキュー大会などのご家族が集まる機会を設け、懇親を図っています。	事業所に意見箱の設置がされておりませんでしたので、設置をされるように期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	形に捉われない柔軟な発想で援助できるように、日頃から自由に意見を言える雰囲気作りをしている。	定期的なアンケートや面談は実施していませんが、毎月の職員会議や日頃の業務のなかで管理者に意見を言える関係が構築されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞きながら、職場の環境づくりをしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協からの研修内容などを確認し、必要と思われるものや本人が受講したい研修については、受講できるようにしている。施設内での研修については今後行っていきたいと考えている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のGHとの管理者意見交換会は、2～3ヶ月に1回行われている。他の職員については、半年に1度他施設職員との意見交換を目的とした交流会を設け、サービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の訪問の際アセスメントし、問題点とご本人の心配なことなどを確認し、入所後の援助方法を検討してきた。また、本人とじっくり話す機会を設けるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向を確認し、在宅での本人の生活の様子を伺うことで、施設生活を安心して過ごせるようにしている。また、家族からの要望についても出来るだけ迅速に対応するようにし、必要に応じて報告している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を元に現段階でどのような援助が必要であるかを考えて援助している。必要に応じ、医療機関への受診なども迅速に対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩とし、野菜作りや料理の方法を聞くなどし、関係の構築に努めている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時にはご本人への援助をどのように行ったほうが良いか相談したりしながら、また、必要に応じて家族の方にも来所していただくよう働きかける事もある。	3ヶ月に1回事業所の広報誌を送付しているほか、毎月ご利用者毎にお便りを作成しご家族に状況をご理解いただいています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	集落行事や町内のイベントには積極的に参加するようにし、施設(入所者)が孤立しないよう努めている。	2月の開設から法人内の人事異動・退職者もなく馴染みの関係を築けるように努めています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声かけをし、レクリエーションへの参加を促したり、外出へ誘ったりしながら、入所者が孤立しないよう気をつけて援助している。時には、職員が意図的に入所者同士に話題を提供し、会話のきっかけを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族やご本人の状態についての相談や支援を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が望む生活スタイルを送れるように職員会議を有効に利用し、援助できるよう検討している。	利用者からの要望に対してはその都度対応するようにしています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族よりの聞き取りや在宅ケアマネジャーよりの情報を元に把握に努めている。	契約時の聞き取りのほか、日々の暮らしの中で得られた情報も追加し、毎月の職員会議で共有しています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、出来ること・出来ないことを見極め、職員間で情報を交換しながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やその都度問題提起されたことについて、職員みんなで検討し、援助に繋がっている。	介護計画については3ヶ月に1回定期的な見直しを行っているほか、ご利用者の状況変化時にも見直しの対応をしています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は個人記録を残し、また、申し送り簿を利用しながら、職員間で連携を図り、援助に結び付けている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけご本人の希望などを確認し、対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事に積極的に参加することにより、地域の方からも催し物がある時は声を掛けていただくようになった。日々楽しく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族など遠方の方が多く、受診のたびにこちらに来ることが出来ないため、施設で対応している。家族などの同意などが必要なときや精密検査を受けるときは家族に連絡し、来ていただいている。	かかりつけ医は入所の際も今までの医師を継続していただいております。基本的には職員が受診に同行し、医師にご利用者の状態を説明しています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報交換をするようにしている。必要に応じて受診したり、家族に連絡をとる体制を取っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族や医療相談員と連絡を密にし、本人の状況や退院後の生活について相談、指導をしてもらっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今現在は、看取りまでの指針をはっきり打ち出しておらず、徐々に検討していくこととしている。	管理者はグループホームを中間施設ととらえ、看取りまでは事業所では行わないという考えでしたが、事業所としての方針はまだ確立されていません。	事業所の方針を検討し、ご家族にも方針を共有できる取り組みをされることを期待します。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網と緊急時の対応マニュアルを作成し、いざという時のために備えている。	緊急連絡網、緊急時の対応マニュアルは作成されていましたが、救急救命の訓練はまだ行われておりません。	救急救命の訓練を実施し、職員が適切な初期対応ができるように検討されることを期待します。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の職員の方にも指導を受けながら、訓練を実施している。また、近隣住民の方にも協力依頼を行っている。	避難訓練を開設から1回実施しており、12月には夜間想定での避難訓練も実施予定です。非常食は確保されておりましたが、水の備蓄がありませんでした。	災害時を想定し、水の備蓄など必要な物品の確保について検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、プライバシーを傷つけないよう気をつけながら援助している。	広報誌に写真を載せる際も必ずご家族から同意を得ています。日々のご利用者への声かけについても幼稚な言葉などは使用せず、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを決めるとき、入所者にも意見を求めるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべてにおいて出来ているとは言えないが、出来るだけ希望に添えるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装の声かけや誘導を行うようにしている。(ご本人の好みを優先するようにしている)		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設前の畑で採れた野菜を使うことで、食卓が楽しく話題が豊富となっている。また、利用者の能力に応じて、調理を一緒に行ったり、片づけをしていただいたり、役割分担している。	訪問調査当日もご利用者と一緒に餃子をつくってました。調理作業を手伝っている方や片付けを行なっている方など、ご利用者の能力に応じて役割分担がされています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜不足にならないように気をつけながらメニューを作成している。また、水分が不足しがちな方に対しては、状況に応じて、水分摂取を促している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、個々の状況に応じ、声かけや誘導を行い実施している。また、必要時は家族に連絡し、歯科医を受診するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては、入所者のほぼ全員が自立しており、パット内への漏れが見られる程度である。プライバシーに配慮しながら、個々に応じたパット交換などの援助を行っている。	ご利用者の排泄パターンを把握しており、状況に応じた声かけを行なっています。必要に応じては排泄チェック表を使用し、管理をしています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄は、ほぼ自立しているため、細かな確認が出来ていないが、バイタル測定を行うときや午後に確認を行うようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声かけにより、みんなが入りたいと希望するときは、くじなどをしてゲーム感覚で順番を決めて行っている。本人の意思を尊重するようにしている。	一般の家庭と同じタイプのお風呂があり、ご利用者の希望に応じた入浴支援がされています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はご本人が在宅で使用していた物を持参されているため、適度に居室で休むように声かけをすることで、安心していただける。夜間は、排泄以外に起きていることがほとんどない。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の個別記録の表紙に薬の内容を記載しており、入所者の変化の認識に努め、用法・用量・副作用を理解した上で行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天候を見ながら、買い物やドライブ・公園への散歩など地域とのつながり・触れ合いを持つようにしている。また、畑仕事や草取りなど一緒に行う事により気分転換を図るようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のように買い物に行ったり、散歩に行くなど、できるだけ施設内に閉じこもらないようにしている。	近くの公園、ご利用者の自宅、外食支援、理美容支援などご利用者の要望に応じた外出支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者にも多少の小遣い程度は持っていたが、受診のときなどに使用するお金は施設で預かっている。本人がほしいものを買うときは、職員が助言したり、確認を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望するときは時間をみて支援している。また、季節の便りを友人などに出す祭もプライバシーに配慮し、支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場は、畳スペースにコタツを設置し、くつろげるようにしている。植物を置いたり、花を活けるなどし、季節感を味わえるようにしている。	共用スペースはきれいにされており、家庭的な雰囲気がありました。日々の暮らしぶりが分かる写真が掲載しており、そのまわりを紅葉の飾りで季節感を出す工夫もされていました。	11月の訪問調査だったのですが、風鈴が飾られておりました。季節感を考慮した共用空間づくりを検討されることを期待します。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースで昼寝をしたり、一人になりたい時は、居室で休むなどし、思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、自宅で使用していたものを持ち込んでおり、使い勝手がよい様に配置されている。	昔から使用していたタンスやテレビを持ち込んでいたり、写真や人形などを飾るなどして、自分に合った居室にされていました。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの入所者について、職員が今の本人の状態を把握し、個々に対応するようにしている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			